（大正十二年十一月八日第三種郵便物認可）　昭和十年十二月七日　常磐毎日新聞（土曜日）　第三千五百五号　（一）

玩具の與へ方 (5)

平第二小學校長　千葉右近

世間に出來上つて居る玩具の中には大人から考へますと、斯うやつて喜ぶだらう、斯う見て面白がるであらうと思はれましても存外子供にぴつたりしないと云ふ樣な物が、決して少く御座いませんから、求めます際にコドモの心になつて其見分けをする事が必要で御座います。

其なら玩具を買ひますのに、子供をつれて行きました方が親も子も諸共に一層樂しく、其上子供の嗜にも適するだらうと考へられもしますが、事實は必ずしも左樣ではないので御座います。第一あの、見るからに綺麗な而も數多い陳列では大人さへ迷ふばかりで御座いますから、子供ですと徒らに目移りがする丈で決して適當なものが選び出せませんし、其內おねだりの惡い癖などがついてしまひます。やはり相當分別がつきましてから『今日は何を』と云ふ目的を明らかにして行く時の外は同伴しない方が間違ひが無いと云ふ事になります。

玩具の値段について考へて見ますと、高價物が良く安價品が惡いかと申しますに決してさうとはかぎらないので御座います。勿論大體に於て精巧な品や材料の上等なものには澤山の費用がかかつて居る筈で御座いますし、手數や原料が省けて居る物の方は廉い筈で御座いますが、電車ごつこをしやうとか、砂を堀つて遊ばうとか云ふ其目的から考へますれば、さう大してえり好みをする必要は無いので御座いまして、堀れればよし、車がついて動きさへすれば充分遊ぶ事が出來ると云つた場合が多いので御座います。屢々夜の道ばたのござ一枚の店先に驚くべき良い玩具を見出して誰かにお禮を申したいやうな思ひをする事があるので御座います。

一體に玩具があまり精巧に出來て居りますと、子供が之に手を加へたり心に添へたりする餘地が御座いませんで、——今此處に一臺の汽車があると致しましてもユドルは口で汽笛の音を出したり、本だの箱だの積み重ねてトンネルを作つたり紙を千切つてお客にしてみたりする處に限りない樂しみもあり面白さもあるので御座いますが、ネヂ一つ卷きさへすれば汽車は自分でポツポーツと唱つて走り、ぐるり一と廻りして又ちやんと坊やの前に戻つて來ると云つた樣におもちやの方ですつかり働いてくれると云ふ事になりますと、子供は勞ひ手を束ねた見物人になるより仕方が御座いません。斯う云ふ種類のおもちやの良さは實物の觀察や機械の研究と云ふ方面に役立つ点にあるのですから、其を餘り早い時から與へたり又は斯う云ふ物ばかり取揃へてしまつりするのはおもちやを生かす方法ではなくなるので御座います。

一册の代金で
御希望通りな
五册の雜誌が
自宅に讀める
月極巡回文庫
電六三〇番
（申込次第規則書進呈）

○○○○○○○○
○明日の獻立○
○○○○○○○○

【朝】味噌汁…若芽　小付　ぶどう豆
【晝】がんもどきのふくめ煮
【晚】チキンライス　紅生姜

七五三お祝服賣出し
男兒オーバ（三圓ヨリ）五圓五十錢
男兒洋服（二圓七十錢ヨリ）五圓七十錢
女兒オーバ（四圓五十錢ヨリ）六圓五十錢
中學生外套
女學生オーバ　賣出中
婦人コート新型入荷
平四　正札堂洋服店　電四三六番

たひら正宗
山崎合名會社
電話一〇番
藤沼醫院
平町・紺屋町
電話五〇七番

美味！
男前！
千ヤナギ
いか切込
賣り始めました
鰹節　鰹鹽辛
平　土橋
丸仙鮮魚店
電六六二番

祝
七五三の
御贈答に
鰹節
志賀盛榮商店
平四丁目（電一二三）

軍人後援の寄附募集不可

建軍の精神に反すと

聯隊區で横鎗

石城郡町村長會では過般帝國軍人後援會の通牒に基き入營兵中貧困者遺族救濟資金として入營兵から一定の寄附金を一律に納付せしむる事を決議したが福島聯隊區司令部では『我國建軍の主義を沒却し且つ崇高なる兵役觀念を銷磨する處れがある』となし、縣に對し反對態度を明らかにし、五日司令部將校談の形式で大體次の如き意見を發表した

聯隊區司令部將校談　後援會基金造成は從來通り各方面の有志の寄附に俟つのを主とし或は町村當局自身の財成に應じ寄附額を負擔するといふやうな方法を考究し壯丁又は一般民よりの寄附は縣內の農村の現況に鑑みなるべく差控へたいと思ふのである、もし入營の代償として兵役稅やうな意味から未入營壯丁より寄附を募集するといふ方法をとるとせば我國建軍の主義を沒却し且つ崇高なる兵役觀念を銷磨するものであつてその害計り知れざるものがあると思ふ

信組の診療所に

醫師會が反對

組合側遂に折れる

江名信用組合が組員互助の健康保金を目的に折戶地內に建設した信組診療所は去月中竣工平町松村醫師が江名町管野醫師と共に擔當で診療を開始した處組合員に半額投藥したことから俄然郡醫師會の問題となり猛烈な反對運動が縣に向つて爲され地方信組並に松村醫師に對して醫師會の規約違反として中止方を强硬に交涉あつた結果縣の認可を得る事が不能に陷つたので信組側もつひに繼續を斷念近く臨時役員會を開催の上建物並に全設備を管野醫師に貸與同醫師か單獨で開業繼續することになる模樣である

体育研究會

九日第三校で

既報平第三小學校で來る九日午前九時から行はれる縣體育課主催の視察研究會には千田體育主事、古川縣視學以下郡下の小學校長及び體操科教員百餘名が出席同校男女生の各種競技を參觀し午後から批判指導會を開く豫定である

草野消防で

自動車喇筒

草野村は消防施設の充實を計る爲め村會の決議により豫算三千圓で自動車ポンプ一臺を福島市に註文し目下製作中であるが本月廿五日頃出來る豫定である

油を積むで

新造船が來航

江名漁業家大喜び

江名信用組合では豫て靜岡縣の小柳造船所に新造タンク船注文中のところ去る二日夕刻新裝なつて中之作港に入港したが途中東京港に寄港全購聯より重油を大量に購入着港したが

同タンク船は江信丸と名稱六十噸積の能率的なもので今後に於ける重油の買入は同船で全購聯より直接搬入、中之作港頭に新造した二千噸收容能力のタンクに貯藏し得るので格安な價格で販賣されるため組合員から喜ばれてゐる

赤井校長住宅

第一尋常高等小學校は校長住宅新築中のところ八日午前十時より上棟式を擧行することになつた

寄附行惱み

四ツ倉のポンプ

四倉町は自動車ポンプ購入に關して磐城セメント會社より三十三百圓の寄附を受くべく交涉中の處此の程二千圓以上の寄附に應じ難き旨回答され町當局で目下計劃中

自治會館を建設

明春いよ〳〵着工決定

湯本町入山炭礦自治會では工費二萬五千圓で自治會館を建設することに決定設計も出來上つたので明春五月着工八月末までに完成することに成つたがこの會館建設費二萬五千圓は坑內で從業員に對し坑內で吸はせてゐた煙草は會社費であつたが危險防止と福利增進の爲三年程前から坑內禁煙を勵行而してこの禁煙錢が會社の算盤玉から出たものと誤解されるといけないので煙草代として月五百圓宛貯金してゐたのが二萬五千圓に上つたので會館を作ることになつた

平第二校で

望遠鏡

太陽黑點參觀

平第二小學校は今六日より理科室に望遠鏡を備へ太陽に新發生の地球の十八倍程の黑点を教材として兒童に參觀せしめた

勿來の禁獵區域

四日付で認定告示

既報勿來町が同町を中心とした狩獵禁止區域の設定は既記の如く縣當局に申請中であつたが縣では去る四日付を以つて左記區域を禁獵區と認定告示した

福島茨城兩縣境と磐越東線との交叉点を起点とし同点より兩縣境を西走し勿來町通稱山小屋街道に至り同街道を同町出藏に達し同所より大日本炭礦運炭線を東に勿來驛に至り同地より磐越東線を南に沿ひ起点に至る區域一圓

小川江總會

十日に開く

磐城小川江筋農業水利改良組合臨時總會は來る十日午前十時より平町團體事務所に開催左記議案を附議する

△組合債及償還方法變更の件△同水利改良事業費寄附金繼續年期支出方法變更の件△同工事費指定寄附金の件△同事業費國庫補助金立替支出の件△昭和十年度磐城小川江筋普通水利組合歲入出更豫算他一件

古川視學來郡

石城郡擔當視學古川佐壽馬氏は昨五日夜來平今六日神谷校明七日桶賣校を視察する

自作農資金

玉川へ二千圓

本郡下に於ける本年度自作農創設維持資金割當は昨五日縣農會で査定の結果本郡の割當額は玉川村の三千三百圓のみと決定した

平町人事

回出生

△北目町一一清水久一郎氏三男幸央さん

△材木町三三渡邊幹雄氏長女榮子さん

平職業紹介所報告

回人を求める方

△トラック助手　廿五才迄　月給十圓

△粕〆雜役　四十才迄　月給十廿圓

△農夫兼醬油配達　廿五才迄　尋卒　月給五六圓

△出前持　廿才迄　月給八圓

回職を求むる方

△集金人　卅四才　中三修

△鐵工　十八才　尋卒

△鐵工　十七才　高卒

祝お三七

お子樣の靴

常に新型！　豐富な良品！　と御評判の

キクチ靴店のサービス

是非お買ひ上げ下さい

平・停車場通り

電　六五九番

勿來農産品評

勿來町農會は來る九日より二日

歲末求人激減

失業群の脅威募る

平紹介所開拓に必死

平職業紹介所去月中の成績は求人男六六、女八、計七四名、求職男六四、女七、計七一名でこの就職者は男女計五六名であるが前月と比較すると求人四四、求職五五の何れも減少を見てゐるがこの激減した原因は前月は錦村昭和人絹會社の申込多數を來した事に依るもので更らに之れを前年同期に比すると求職は僅かに十一名の増加を見求人に於て百二十九名の大激減を示したがこれは昨年同期に於ける炭礦界の好況の波に乘り坑夫の申込殺倒した爲めであるが求人の激減は失業群のため一ヶ脅威、歲末の折柄當局では求人開拓に必死の努力中である

兄弟子を賴る

哀れな小僧

昨夜平署に救はる

昨五日午後九時半頃平驛附近を徘徊中の袢天着の男を不審と睨み驛前派出所の鈴木部長が連行取調べると同人は川前村大字川前生れ當時内郷村大字宮字金坂一五菓子商吉田照明方徒弟兼田正一(一八)で小名濱町に先月開業した兄弟子草野利明(二二)を賴つて相談に行く途中と判明したが涙ながらに語る所によると

前記菓子店には正一の外夏井村出身で主人と同郷の五名の朋輩が居り何時も事毎に辛く當り幾ら眞面目に働へても主人に始終叱られて許り生きた空もないので前記小名濱と兄弟子を尋ねて今後を相談する途中と申立ており主人に引渡した

主人の金を拐帶

變裝して逃走

犯人平署に捕る

郡下の麥に

赤銹病

農會豫防對策

石城郡地方の本年は晩秋から初冬にかけ天候極めて暖かく小麥が徒長軟弱に生育し殊に小麥の強敵である赤銹病が發生し易いので郡農會では少からず驚愕し豫防法宣傳に腐心中であるが良法としては石炭礦黄合劑ボーメー八氏液、〇、四乃至五〇液を反當八斗乃至一石を双葉郡浪江町驛前カフエー大安事山崎善三郎方コック相馬郡中村町字小原生佐藤武雄(二二)は昨五日午前九時半頃主人振出しの小切手受取りに同町常陽銀行出張所に出頭　現金四百六十五圓六十五錢を受取つた足で同町和タクシー方に至り同家運轉士關本叶(二四)の貸切りで平町に逃走料金十圓を拂つてその儘高飛びすべく驛前で外套並に帽子を求めて變裝三時の上り列車で平驛より姿を晦まさんとした間一髪浪江署の手配に依り平署の敏腕刑事に逮捕された

江名上水道

引込み勸誘

江名町上水道施設は去月中に完成したので目下需要家に引込み勸誘中であるが同町水道部では申込者に對し左の特典を與へて居る

一、給水引込工事は一戸當精算額の三割を區で負擔する

一、竣工後一ヶ月は無料給水

一、工事費半額の即納者

泥醉した老人

家人に發砲

平署に引致取調べ

鹿島村大字久保農鈴木千松(七三)は去月廿六日夜泥醉して歸宅したが些細の事から家人と口論をした揚句獵銃を持つて庭先におり轟然二發を發射した事判り目下平署で取調中である

北海で行倒れ

平町一丁目一五武花兼松(八六)は昭和九年四月北海道苫呂郡野付牛町で行倒れ行路病者として同役場に收容されてゐたが死亡した趣通知あつた

人夫の沸底で

平町工事停頓

土工狩出しに多忙

夏井川改修工事並に縣町道の鋪裝工事は歲末迫つた最近工事進捗に拍車をかけてゐるが去る十月來の地方農村の繁忙と海岸地方の豊漁關係で從來同工事に從事してゐた人夫まで職場を離れ殊に新規に應募する土工等は皆無の狀態にありこの處平町の諸工事は人夫大沸底で約二百名程不足を告げ働ぐ人はありませんかと同紹介所は目下土工狩り出しに大童である

濱の强盜公判

平第一生が傍聽

相馬郡高平村大字上高平字京塚三八七生れ住居不定無職千尋庄八(四八)が去る九月二十六日午后十一時頃小名濱町古港四七吳朝雜貨商志賀清十郎方へ忍入り店先の金錢登錄器より金五十錢を窃取し更に物色中を店主と妻ナオに發見され土間にあつた下駄で兩名を頭部を毆打した事件は住居侵入並に準强盜罪で來る十日午前九時より平支部中島裁判長係り香西、小林兩判事列席清田檢事立會公判開廷されるが同日平第一校高等二年生九十二名が菅波、松本兩訓導引卒の下に傍聽する

今晩の部

▼後六、〇〇 子供の時間　管絃樂　東京ラヂオオーケストラ
▼後六、二五 基礎英語講座(三十九)岡倉由三郎
▼後七、三〇 奉祝講演會　議員議長　濱田國松
▼後七、五〇 奉祝俚謠大會　熊本　廣島　京都各古屋　仙臺　札幌
▼後八、五〇 舞臺劇「春日局」中村歌右衛門一座
▼後九、三〇 時報　ニュース　氣象通報　明日の歷史　番組豫告

明日の部

▼前七、〇一 基礎エスペラント語講座　武内大造
▼前七、三〇 朝の修養「釋尊の成道」花田凌雲
▼前九、〇〇 衛生メモ
▼前一〇、三〇 家庭講座「盆栽の冬籠り法」丹澤美助
▼後〇、〇五 管絃樂　名古屋交響樂團
▼後二、〇〇 母の時間「女子教養の第一義」白石正邦
▼後五、三五 講演「釋尊のさとり」就て　藤波大圓
▼後六、〇〇 子供の時間　傳說物語「分福茶釜」　高崎童話教育研究會　藤橋觀音樣、笙」　昔々亭桃太郎
▼後七、五五 ギターとカスタネット獨奏　マヌエラデル・リオ　ホアキン・ロカ
▼後八、二〇 浪花節「慶安太平記」木村重勝
▼後九、〇〇 時事解說「明年度の豫算に就て」牧野輝智

天氣豫報

今晩も明日も北西の風天氣良し

明日のラヂオ

仙台放送局

七日

明治太平記

(銀無詩綴級上欧及上海)

(作)　寺島柾史

(畫)　伊藤

第二百九十三回

生者死者　(九)

『第四、舊來の陋習を破り天地の公道に基づくべしと仰られたが、政治家どもはこのたふたい御誓文に忠實であるか、われわれは、天子様のこの御命令によつて勇敢に西歐思想心酔の新しい弊害を破らねばならぬ。第五に何と仰られたか、智識を世界に求めて大いに皇基を振起すべし……なるほど智識を世界に求めることにきう〳〵してゐるが、さて皇基を振起してゐるか、てうどその反對だ。われわれは、天子様のお言葉に對して、實に不忠極まりない臣民だと慚愧してをる』

『さうだ、われ〳〵は不忠だ』

手づなを握る遷卒は、土まみれになりながら、さんぜんと涙を流した。

『われ〳〵は、無力ながらもこのあやまつた政治を改め、天子様のお言葉にしたがつて、日本民族の世界統一の大理想に突進しなければならぬ。そのために……』

『おゝ、そのために?』

これは、手づなを握る巡察だけではなく、群集全體の、民族の血のさけびのやうに大志賀にはきかれた。

『そのためには……』

もいちど、それを繰返さうとしたとき、そのとき群衆を掻きわけて、忽然と馬

前に立現れた一人の立派な紳士のために制せられた。

『こりや、控へろ』

その紳士は、いまのさつきまで、白晝烏森の濱の家で、酒を飲んでをつたむかしの友副島種臣だつた。悲の騒音、料亭の若者の注進をきいて、自らこれを鎭撫するために乘出してきたものとみえる。

『おゝ、君は……』

大志賀はおもはず身を乘出した。副島はそれを叩きふせるやうに

『控へろ、白晝その奇態は何事ぞ。早々に車をおりろ』

大志賀は、ウエルズの胸のあひくちを引つこめずにそれに應じた。

『おぬしはおれの仕事の邪魔をしにきたのだな』

『安寧秩序をみだす奴は、誰人たりとも容捨はせぬぞ』

『どけい、おぬしの出るところではないわ、どけい』

『いや、一歩たりともどかぬ。はやくおりろ。いかなる仔細あるか知らぬが、その奇嬌なる振舞は人心をみだるものぞや。大志賀、おのれの執るべき道ではないぞ』

『いや、おぬしは素浪人だ。明日どうならうと、またおれの名に傷がつかうと、それに恐れはせぬ。いらぬご節介をせずと、おぬしこそ控へろ……おい、エトロフの親方、馬をすゝめろ。邪魔する奴は、片つ端から踏つぶして往けい』

『ようし、合點』

茂平次はやつと自分の番が廻つてきたといはぬばかりに、鞭を振上げた。

『そこに居る立派な紳士、わるいことはいはないからどいたどいた』

しかし、馬が鼻息あらく駈け出さうとしても、大地を踏みしめた副島の足は微塵も動かぬ。

『副島ど、かぬか、馬車にひき殺されるぞ、どけい』

『斷じて』

『おぬしは、まだ死ンではならぬ。西歐心酔の政府當路者のうちで、おぬしと西郷さんだけは生きてゐて貰はねばならぬ。怪俄かあつてはならぬ。どけい』

『それよりも、おのれこそその馬車をおりろ』

季節料理

よせなべ　30錢

その他……

かきなべ……三〇
はもなべ……同
いかなべ……同
ねぎまなべ…同
あんこなべ…同
ちりなべ……三〇
あなごちりなべ…三〇
たらちりなべ……同
酢のもの……二〇

煮込みなべ……三〇
牛なべ……三五
豚なべ……同
鳥なべ……同
ゑび天ぷら……三〇
ゑび天どん……三五
ゑびふらい……三〇
かきふらい……二〇
あんことも酢…二〇

等々始めました何卒御試下さい。

平三警察署通り

魚清食堂

電話六三二

御祝儀、御法事の仕出し
廉價に御引受け致します

醫學士　吉田久雄

吉田眼科病院

平紺屋町電話〇〇番

福祿ストーブ福引

景品付大賣出し

景品總額五萬圓

期間昭和十年九月廿五日ヨリ十二月十二日マデ

賣出規定

福引券　ストーブ御買上ノ方ニ左ノ割合ニテ呈致シマス。

フクロクストーブ　一號　大衆(中型)寶(大小)各一本ニ付一枚
フクロクストーブ　二號　大衆(大型)　各一本ニ付二枚
フクロクストーブ　三號　各一本ニ付三枚
フクロクストーブ　四號　各一本ニ付四枚

抽籤發表　昭和十一年二月十一日東京朝日新聞發表致シマス。

景品引換　昭和十一年二月十五日ヨリ四月十五日迄

福引券引換ニ最寄ノ代理店ニテ景品ト引換致シマス

景品

一等　百圓　一本
二等　參拾圓　二本
三等　拾圓　三本
四等　五圓　四本

等外特製福祿便箋　空鐵ナシ

福祿ストーブ販賣代理店

平町五丁目　(久)釜屋商店

平驛前　(ロ)阿部石炭商店

期待せよ!

南船ニナ座

その名も高きフランス劇團の名匠ヴイルドラックが傑作の映畫化。今や歡呼を浴びて上映の日迫る!!